

学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

☆ 新たに2学期にも「中学校新入生交流会」を企画・実施 ☆

三中校区では、小学校同士の交流が少ないこと、中学校入学後にトラブルが増えること(中1ギャップ)が課題の一つとして挙がっていました。そこで、交流を増やして中学校生活をスムーズにスタートするための一助とすることを目的として新たに2学期に「新入生交流会」を企画し、授業体験(社会、数学、理科、英語)及び交流活動を行いました。

☆ 成果 **〈理科の授業体験〉** → 例年2月に行う新入生説明会で同じような体験を行います。2学期に行うことで、6年生は早い時期に中学校生活への見通しをもつことができました。6年生児童の感想も良好であり、2月にもう一度交流を行うことで、中1ギャップの解消につなげていく見通しをもつことができました。



学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成

☆ 【あ・い】を感じる交流！ 中学生を講師とした小学生の夏休み学習会 ☆

四中校区では、小学校4年生以上が対象の「夏休み学習会」に中学校の3年生が講師として参加し、中学生が丸付けをしたり小学生の分からないことを教えたりしました。



☆ 成果 小学生は、難しい問題を分かりやすく説明する中学生の姿に憧れを抱いたり、褒めてもらうことで学習意欲を高めたりすることができました。また、中学生にとっては自己有用感を高め、自分に自信をもつことができる機会となりました。小学生は憧れの気持ちを、中学生はいたわりの気持ちをもち【あ・い】を感じるができる有意義な活動となりました。そして、小中学生共に、お互いの姿から夢や希望に向かって努力することの大切さを学ぶことができる場となりました。

☆ 教職員の連携を工夫し、児童生徒理解を深める ☆

浜田東中校区では、教職員対象の合同研修会を特別支援教育関係の1回、人権・同和教育関係の2回と3回実施しました。この3回の研修を通して、小中学校の教職員同士で話し合う機会を多くもつことができ、それぞれの学校における取組を具体的に知ることができました。



〈小中学校合同の人権・同和教育研修〉

そして、研修で学んだことを子どもたちにどう伝えていくのか、考えさせていくのかなど、指導や支援の在り方について生かすことができました。

☆ 研修後の取組 **〈小学校人権集会〉** → 小学校では「気付きの大切さ」に着目しました。そして、気持ちが良くなる言葉と人を傷つける言葉に焦点を当て、日々の指導に生かしました。子ども達が企画した人権集会では、国府小学校の素敵なことを言葉にする取組も行いました。



小中学校の連携した取組を通して、小学校から中学校へのつなぎを円滑に行うことができます。また、小学生と中学生が共に活動することにより、小学生は意欲を高めたり憧れをもったりします。そして、中学生は自己有用感を味わうことができるなど、それぞれにより学びを得ることができます。このことを更に充実させていくのは、小中学校教職員が研修内容に応じて子どもの姿・実態に学び指導に生かしていく連携した営みです。

令和3年度を振り返って

表紙にある4つの視点(①各中学校区で一体となった生活習慣づくり、②学ぶ意欲を高め夢や希望に向かって努力する子どもの育成、③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成、④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成)について、小中連携教育による実践や浜田市教育委員会施策事業、各学校での取組を通して達成を目指しています。目標指標に沿って、今年度の状況を振り返ってみます。下線が今年度、◎は目標値、○はスタート値を上回っていることを表しています。

①各中学校区で一体となった生活習慣づくり

「普段(月～金曜日)、1日あたり2時間以上テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする子どもの割合」の減少。

スタート値(平成26年度)	小学校6年: 32.5%	中学校3年: 29.9%
令和3年度値	小学校6年: 42.8%	中学校3年: 55.7%
目標値(令和3年度)	小学校6年: 30.0%	中学校3年: 27.0%

「普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上家庭学習をする子どもの割合」の増加。

スタート値(平成26年度)	小学校6年: 55.8%	中学校3年: 46.7%
令和3年度値	小学校6年: 55.3%	◎中学校3年: 58.6%
目標値(令和3年度)	小学校6年: 64.0%	中学校3年: 65.0%

☆メディア接触時間については、スタート値より小学校10.3%、中学校25.8%と増加しており、危惧しています。このことは家庭学習時間にも影響を及ぼしています。メディア接触時間、家庭学習時間について自分で時間をコントロールしていく力を育てていく必要があり、この力は将来にわたって必要となる重要な力と考えています。この力を育てていくためには家庭の協力が必要です。家庭で相談をしながら「ルール作りやルールの確認」とともに、自分で自分の生活を設計していく力を育てていく取組をお願いします。

③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

「自分には良いところがあると思っている子どもの割合」の増加。

スタート値(平成26年度)	小学校6年: 79.1%	中学校3年: 73.9%
令和3年度値	小学校6年: 77.3%	◎中学校3年: 73.9%
目標値(令和3年度)	小学校6年: 86.0%	中学校3年: 77.0%

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている子どもの割合」の増加。

スタート値(平成26年度)	小学校6年: 90.4%	中学校3年: 97.0%
令和3年度値	◎小学校6年: 94.9%	◎中学校3年: 96.8%
目標値(令和3年度)	小学校6年: 95.0%	中学校3年: 98.0%

☆「自分には良いところがあると思う」児童生徒の割合はスタート値と比較して伸びていません。まずは、自分は家族をはじめとした周囲の人に大切にされていると実感できるように接していく必要があります。「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」児童生徒の割合が95%前後と高いことは、嬉しいことです。

④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成

「総合的な学習の時間で学習したことが普段の生活に役立つと思う子どもの割合」の増加。

スタート値(平成26年度)	小学校6年: 83.5%	中学校3年: 74.1%
令和3年度値	◎小学校6年: 88.2%	◎中学校3年: 90.9%
目標値(令和3年度)	小学校6年: 90.0%	中学校3年: 90.0%

「総合的な学習の時間において、自分で調べ学習に取り組んでいると思う子どもの割合」の増加。

スタート値(平成26年度)	小学校6年: 57.7%	中学校3年: 52.7%
令和3年度値	◎小学校6年: 76.5%	◎中学校3年: 84.0%
目標値(令和3年度)	小学校6年: 80.0%	中学校3年: 80.0%

☆「総合的な学習の時間」による取組ですが、2つの項目ともスタート値と比較して伸び率が高い項目となっています。ふるさとの「ひと・もの・こと」について自分たちなりに課題を設定し、その解決に向けて情報を集め、解決方法を考えていく主体的な学習が充実してきている証です。このような学びは、学習指導要領で目指している「主体的・対話的で深い学び」に迫るものであるとともに、地域のことを考え積極的に関わって行こうとする姿勢を育てることに繋がります。

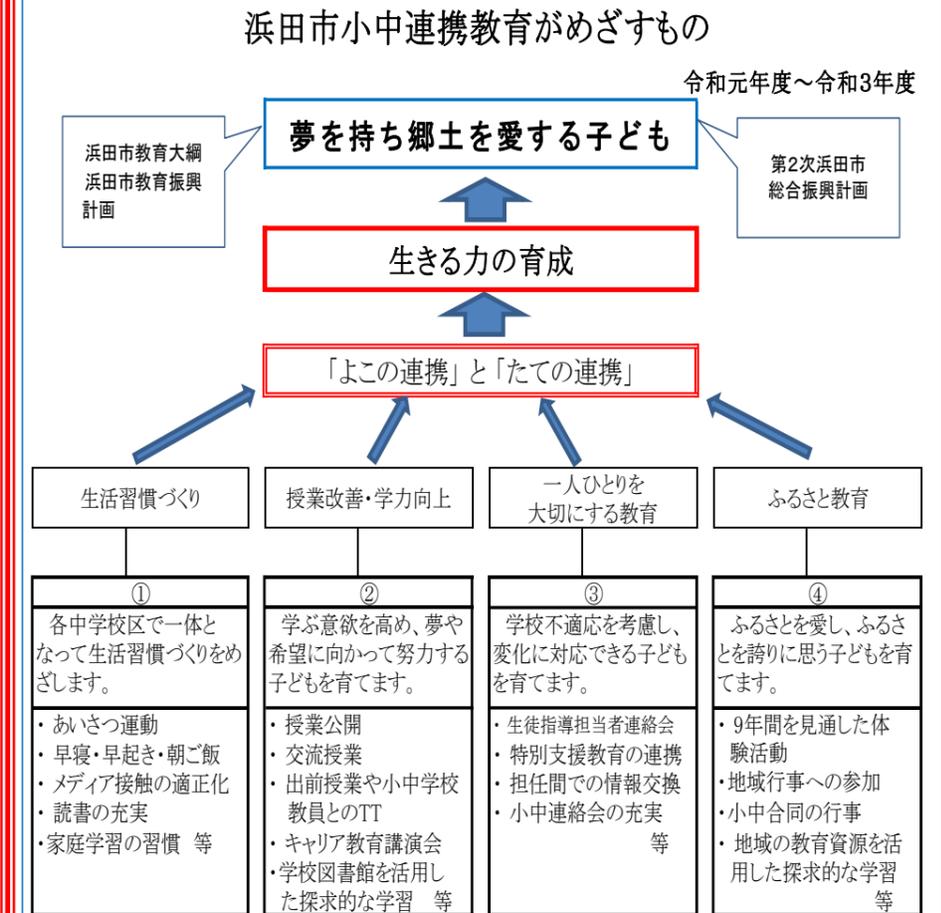
令和3年度

浜田市小中連携教育実践の概要

《浜田市小中連携教育基本方針》

めざす子ども像(浜田市教育振興計画)

夢を持ち郷土を愛する子ども



「浜田市小中連携教育」は、平成21年度に「浜田市小中一貫教育基本方針」を示し、平成22年度から中学校区ごとの取組が始まりました。子どもたちの発達の段階におけるそれぞれの課題に対応するために、幼・小・中一貫した「たての連携」を重視し、前浜田市教育振興計画に掲げられた3つの子ども像「きまりを守り、生活リズムを正しくたくましく生きぬく子」「感性豊かで他を思いやり、人とのつながりを大切に子」「夢や希望にあふれ、学ぶ意欲をもち、ふるさとを愛する子」の具現化に向けて、中学校区単位で「よこの連携」を大切にしながら、それぞれの実態を踏まえ、特色を活かしながら具体的に育てたい指導目標や指導内容を定めて取り組んできました。

平成27年度に第2次浜田市総合振興計画及び浜田市教育大綱が策定され、その理念を実現するために新たな浜田市教育振興計画が策定されました。この機会に、それまでの名称「小中一貫教育」を、「浜田市小中連携教育」とし、浜田市教育振興計画の基本理念に基づき、実践を行うこととしました。今年度で浜田市教育振興計画(前期)に基づいた実践は終了をしますが、来年度からは後期の浜田市教育振興計画に基づき、これまでの実践の成果と課題を踏まえて取組の重点を定め、継続して取り組んでまいります。

保護者の皆様にも、今年度の「浜田市小中連携教育」の各中学校区の取組の様子をご覧いただき、ご理解いただければと考えています。今後とも、ご支援・ご協力をお願いします。

浜田市教育委員会 教育長 岡田 泰宏

中学校区で一体となった生活習慣づくり《メディア接触及び家庭学習への取組特集(4中学校区の取組から)+食生活》

浜田市小中連携教育の取組の中で大きな課題として捉えているのは【メディア接触】とこれに伴う【家庭学習時間】です。したがって、昨年度はリーフレット紙面の多くを「メディア接触への対応特集」としました。本年度の「普段(月～金曜日)、1日あたり2時間以上テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする子どもの割合」は、昨年度と比較して小学生は3.3%少なくなっていますが、中学生は11.2%増加しています。「普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上家庭学習をする子どもの割合」は小学校では2.3%減少し、中学校も7.6%の減少でした。課題は改善していません。しかしながら、三隅中学校区では、昨年度と比較して、2時間以上メディア接触をしている子どもの割合が18.8%減り、これに伴って1時間以上家庭学習を行っている子どもの割合が29.3%増加するなど、改善が見られた中学校区もあります。また、子ども達自身が目標を設定し、その目標を達成していくための取組、つまり、自分自身で時間をコントロールしていく力を育てていく取組も各中学校区で行われました。この取組は、本年度に特に力を入れていきたいとしたことでもあります。

以下に、4つの中学校区での本年度の取組及び食に関する取組を紹介します。家庭や地域も含め、子ども達に自己をコントロールする力を育成していくことが必要です。特に家庭での子どもへの働きかけは重要です。ご協力をお願いします。

☆ メディアコントロールをして家庭学習時間を増やす ☆

一中校区では小中連携教育の柱として「家庭学習の充実」と「メディアコントロール」に取り組みました。第一中学校では「メディアコントロールをして学習時間を増やす」ために、定期テスト中に以下の取組を行いました。

① 学級活動「家庭学習をパワーアップしよう」

事前アンケート結果から家庭学習を進める上での課題を見つける⇒グループになって家庭での過ごし方について話し合う⇒家庭学習の意義を確認し実践への意欲化を図る

② 個々の目標に向かって実践(試験範囲発表2週間前から実施)

○ 学習計画表に加え、目標をもちやすいようなワークシート(例:家庭学習で日本一周をしよう)による取組

○ メディアコントロールのステップによる取組

- ・ ステップ0:メディアコントロールできない
- ・ ステップ1:メディア接触1日3時間まで
- ・ ステップ2:メディア接触1日2時間まで
- ・ ステップ3:メディア接触1日1時間まで
- ・ ステップ4:1日中メディアに関わらない



③ 学級活動「実践の振り返り」

グループになって、互いの取組を確認⇒互いの成果を出し合う⇒自己の成長を見つけ共有(認め合い)する⇒今後の家庭学習へ生かす

☆ 成果と今後の取組

1学期の定期テストに比べ、3年生では1日当たりの家庭学習時間が2.7時間⇒3.0時間に増加しました。また、ステップ3:メディア接触2時間に取り組みましたが、65.3%の生徒が目標を達成しました。

今後は、定期テスト期間中の取組を年間を通した取組に発展させていく予定です。

☆ 課題を明確にし、改善策を設定し実践!そして次年度へ ☆

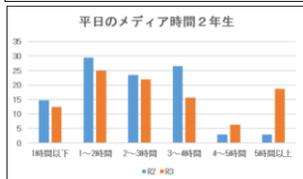
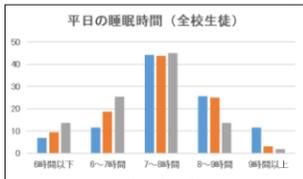
二中校区では、昨年度の実践から「睡眠時間の確保」「家庭の関わり方によって成果の差が大きい」ことに着目し、児童生徒自身による積極的な取組と保護者協力を促すことに取り組みました。また、これまでの取組を見直し、「取組を開始する際に保護者へお知らせメールも配信する」「小学校の低中学年については取組内容によって点数化を図る」「小学校高学年は生活全般を記録する」「一週間のメディア接触時間の合計を見える化する」「家庭学習時間の合計欄を設ける」「児童会やPTA活動で取り組む」「経年比較により該当学年の特徴を捉える」等、取組について改善を図りました。

家庭の関わり方によって成果の差が大きいとの課題について、小学校では新たに「取組開始時の保護者へのお知らせメール配信」により、ほぼ全ての家庭で取組への支援が行われ、保護者からは「子どもに対する注意喚起がしやすい」という感想も寄せられました。

睡眠時間の確保については、中学校では学年が上がるにしたがって睡眠時間が減少する傾向があることを再確認することができました。経年比較では2年生において前年度と比較して6時間以下の割合が増加していました。メディア接触時間では、学年が上がるにしたがって増加し、経年比較においては特に2年生において前年度と比較した増加割合が高いことが分かりました。そして、このことからメディア接触時間と睡眠時間は互いに影響し合っていること、特に1年生から2年生にかけての変化が大きいために気が付きました。小学校においては、児童会で睡眠アンケートを実施して全校児童へ発表したり、PTA保健体育部の企画で学校医による睡眠についての講話を計画したりもしました。

☆ 今後の課題

次年度の取組への課題として「児童会・生徒会及びPTA活動での取組充実」「経年比較から各学年の特徴を捉え、指導に生かす」「小学校高学年及び中学生においては、自分の時間の使い方を考える」が挙がっています。これらのことについて、家庭や関係機関と連携して取り組んでいく予定です。



☆ メディア接触時間、家庭学習時間共に改善傾向 ☆

金城中学校区では、三隅中学校区よりは改善数値は低いものの、昨年度と比較すると「2時間以上テレビゲームをする子どもの割合」が53.4%⇒41.7%に減少し、「1日1時間以上家庭学習をする子どもの割合」が65.5%⇒69.0%に増加し、改善傾向が見られています。

毎年、中学校区共通の目標を設定して取り組んでいますが、本年度は「質の良い睡眠で健康に過ごそう!」を目標とし、以下の3つの観点についてチャレンジ期間を設定し取り組みました。

① 睡眠時間をしっかり確保する

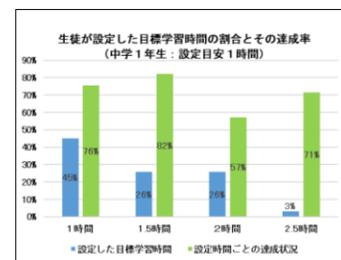
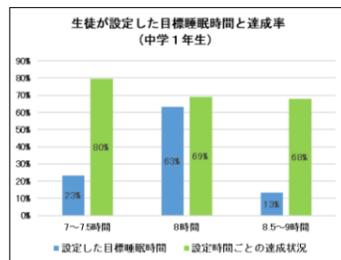
学年段階に応じて3つの睡眠時間の目安を示し、起床時刻と就寝時刻を自己決定して取り組み、結果を自己評価する。

② 家庭学習を軸とした生活リズムをつくる

1日の学習時間を小学生は「学年×10分」、中学生は「学年×1時間」を目安として示し、目標を個々に定めて取り組み、結果を自己評価する。

③ 寝る前のメディアの使い方に気を付ける

中学校区でルール「寝る30分前にはメディアを止めます」を決め、毎日自己評価する。



☆ 成果

中学校区で同一の目標や観点を定めた取組を行ったことにより、家庭の協力が得やすく、児童生徒も共通の目標や観点を定め、具体的な行動目標を定め、自己評価をすることによって、昨年度と比較して改善が見られました。今後も、児童生徒が自分自身をコントロールしていく力を高めていくような取組を継続していく予定です。

☆ 自己目標の達成を目指し、メディアコントロールの力を身に付ける ☆

旭中校区では、毎月15日を小学校では「生活リズムバッチリデー」、中学校では「メディアコントロールデー」として、児童生徒それぞれが目標を決めて取り組んでいます。実施日の前日には、担当委員会の児童生徒が全校児童生徒に呼びかけを行い、意欲付けも行っています。この取組を毎月継続することで、メディアと関わる時間を意識することにつながりました。

☆ 成果

自己目標達成率の年間平均は、小学校76.1%、中学校は成果目標として設定した80%を超え、81.4%でした。

今後は、メディアを適切に利用できる力を身に付けることができるように継続した取組を行っていきます。

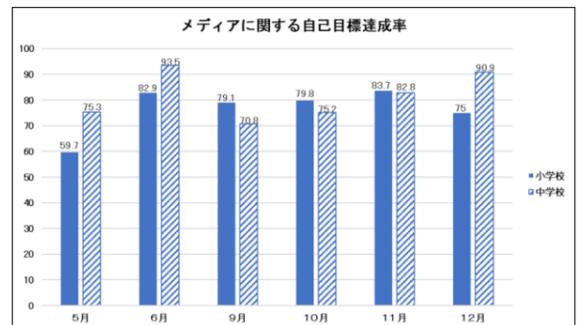
毎月15日に次の2つについてチェックし、振り返り、改善策を話し合おう。

① 学習時間、睡眠時間、メディア接触時間、生活リズムについて、達成率を記録しよう。

② 達成率を記録し、達成率を高めよう。

【決めたこと・がんばること】

自分の家で	達成率	達成率
コース		



☆ チャレンジ健康ウィーク もっと元気になる食生活 ☆

弥栄中校区では、たくましい心と体をもつ児童生徒の育成を目指し、「チャレンジ健康ウィーク」に取り組んでいます。弥栄っ子を育てる会では、児童生徒がすくすくと育つように、もっと元気になる食生活7項目を挙げています。今年度は『朝ごはんに「卵」を食べよう』に着目し、児童生徒自身が自分の家の卵料理を知り、卵料理に関わることで食への意識や関心が高まることをねらいとして「チャレンジ健康ウィーク」を実施しました。

<パート1>「家の卵料理を食べよう」:夏休み

家の人がどんな思いで料理を作っているのか、話を聞くことから始める。

<パート2>「家の卵料理を食べよう・かかわろう」:9/18~26

家庭の卵料理の材料を調べたり、買い物に行ったりすることを通して卵料理に関わりチャレンジシートにまとめる。

<パート3>「家で卵料理を作ろう・食べよう」:冬休み

小学生は家の卵料理を実際にする、中学生は生徒によるデモンストレーションを行った後、冬休みに生徒全員が工夫したレシピを考え、卵料理コンテストを開催する。



〈卵料理コンテスト〉

☆ 成果

児童生徒が食への関心を高めました。また、保護者アンケートには、「手伝いを全くしなかったのが、するようになった」「自分でレシピを調べ、積極的に調理をするようになった」などの感想が寄せられました。

ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成

☆ まずは教職員が地域を知る そして、ふるさと教育を充実 ☆

三隅中校区では、ふるさと教育を推進していくに当たり、「6館のまちづくりセンターと連携を取りながら進めていくこと」「子どもが地域に関心をもつこと」「小学校高学年や中学生には、地域の一員としてできることはないかを考える機会をもたせること」などについて、教職員が共通理解をしました。そして、教職員が地域を知ることが目的として、市教育委員会やまちづくりセンターの協力を得て、夏休み中に教職員の町内見学研修を実施しました。



〈教職員の町内見学研修〉

児童生徒の指導に当たっては、昨年度に中学校区で共通理解を図った「ふるさと教育全体計画」に基づいて実践を行いました。小学校では生活科、社会科、総合的な学習の時間などの教科等においてふるさと教育の実践を行いました。中学校では総合的な学習の時間を核に、防災学習や職場体験として地域に出かけました。このような取組を通して、「総合的な学習の時間に学習したことが普段の生活に役立つと思う子どもの割合」が昨年度から1.3%増加して98.5%になりました。

☆ 今後の取組

今後は小中連携教育を推進し、地域の一員として地域へ愛着をもつことや地域の課題に取り組む力を育てたり、地域の方の生き方に学んだりすることを通して、ふるさと教育で学んだことを自分の生き方や将来について考えていくキャリア教育にもつなげていきたいと考えています。

ふるさと教育では、教科等の学習内容に応じて地域の「ひと・もの・こと」について、学んでいます。

三隅中校区においては、地域に関心をもつだけでなく、学習を通して地域の一員としてできることはないかを考える機会をもたせる取組を小学校高学年以上で行っています。この取組は、ふるさと教育を実施する教科等で中心となる総合的な学習の時間において、学習したことが普段の生活に役立つと思う子どもの割合が伸びた一因でもあると考えます。